

## 平成29年度 第3回大和市総合計画審議会 会議録

- 1 日時 平成29年11月14日（火） 13時30分～15時00分
- 2 場所 市役所本庁舎5階 委員会室
- 3 出席者 委員12名  
井川、池田、宇佐美、小川、川渕、小須田、春原、田中(孝)、田中(寛)、  
中林、長谷川（委員、敬称略）  
（欠席2名）
- 4 傍聴人 なし
- 5 次第
  - 1 開会
  - 2 議題
    - (1) 第8次大和市総合計画の施策評価
  - 3 その他
- 6 会議資料
  - 資料1-1～資料1-4 : 基本目標1・平成29年度施策評価（二次評価）シート
  - 資料2-1～資料2-3 : 基本目標2・平成29年度施策評価（二次評価）シート
  - 資料3-1～資料3-3 : 基本目標3・平成29年度施策評価（二次評価）シート
  - 資料4-1～資料4-3 : 基本目標4・平成29年度施策評価（二次評価）シート
  - 資料5-1～資料5-2 : 基本目標5・平成29年度施策評価（二次評価）シート
  - 資料6-1～資料6-3 : 基本目標6・平成29年度施策評価（二次評価）シート
  - 資料7-1～資料7-3 : 基本目標7・平成29年度施策評価（二次評価）シート
  - 資料 8 : 第8次大和市総合計画の施策の評価について（提言）（案）

### 【議 事】

---

- 会長 : 議題（1）第8次大和市総合計画の施策評価について、事務局に説明を求める。
- 事務局 : 今年度は第8次大和市総合計画後期基本計画の中間評価として、平成26年度から平成28年度の3年間の取り組みについて、2つの部会に分かれて各個別目標ごとに評価、提言をいただいた。それぞれの部会において交わされた議論や評価の概要をご説明いただきたい。  
なお、本日の意見を取りまとめたものを、後日、会長から市長にご提出いただく。
- 会長 : では、まず第2評価部会から報告をお願いします。
- 委員 : **【資料3-1～資料5-2、資料7-1、資料7-3を基に報告】**
- 会長 : 第2評価部会の報告内容について、何か質問や意見などはあるか。  
市民活動の分野と福祉分野の連携をどう見直していくかが、次の総合計画に繋がっていくと考える。それぞれの分野ごとの評価と、それらをまたぐ評価の在り方について、行政組織の問題や、地域ごとの問題を把握した上で解決していく必要がある。

- 委員 : 資料3-1、総合計画審議会の過去の提言で福祉避難所の話が出ているが、東日本大震災ではペットの受入が問題となった。ペットを飼っている家庭が増えている現代、大和市の避難所におけるペットの受け入れ態勢についてはどうなっているか。
- 事務局 : 危機管理担当課でペットについての課題は認識しており、各避難所の運営委員会で検討されている。
- 委員 : 衛生上の問題はあると思うが、野良化してしまうとまちの危険性が増すため、考えてほしい。
- 会長 : 福祉避難所は、普通の避難所では生活が困難な方のために設置するものであるが、いざという時に避難者のケアを誰が行うのかが大きな課題になっている。近年、避難所については、学校など、場所の提供は市が行うが、運営については地域の住民が自分たちで行う方向になっている。そうした中で、福祉的なケアが必要な方や、ペット連れの方などに対し、体育館以外の部屋も使えるようになると、避難所としての対応に幅が出てくると考える。また、これから高齢社会が進展すると、世話を必要とする人がさらに増える一方で、世話をする人が減っていくということが大きな課題となってくる。  
 続いて、第1評価部会から報告をお願いします。
- 委員 : **【資料1-1～資料2-3、資料6-1～6-3、資料7-2を基に報告】**
- 会長 : 第1評価部会の報告内容について、何か質問や意見などはあるか。
- 委員 : 確認だが、再開発した大和駅東側第4地区とは、どの範囲を指すものか。
- 事務局 : 大和駅東側を再開発する際、8つに分割した地区の中のひとつで、文化創造拠点シリウスの区画が、すなわち第4地区である。
- 委員 : 個別目標2-2、中高生ボランティアの件数が減少傾向にあるが、月に1回でも授業として行っているのか。無いとしたら授業として行うことは可能なのか。
- 事務局 (説明追加) : 成果を計る主な指標にあるボランティアについては、主に長期休業中の活動であり、授業の一環ではないと聞いている。ボランティアにはいくつか窓口があり、青少年センターまつりや市民まつり、夏休みの青少年センター体育室のボランティアは青少年部門が担当しており、また、社会福祉協議会や市民活動センターでも独自に中高生ボランティアを募集している。
- 委員 : 学生が自主的に行っているのか、学校からあっせんして行っているのか。
- 事務局 : 青少年部局が作成したチラシを中学校経由で生徒へ配布するなど、青少年部局と学校が協力してボランティアを募集しているが、活動は生徒が自主的に行っていると聞いている。
- 会長 : 今回の評価においては、基本目標2についてだけでなく、色々な施策にかかわって子どもに関する議論が行われた印象である。合計特殊出生率が県内市の中で1位になったことのほか、まちづくりの面では、市北部の開発に伴う人口増を背景とした小学校の校舎増築、福祉や地域活動に関連しては、教育の幅を広げていく社会体験・弱者への支援やボランティアなど、児童・生徒の人間性を育成するための取り組みが行われている。さらに、農業の分野においては、親子農業見学会のほか、学校給食に地産地消を入

れ込むなど、食育の中に市の農業を取り入れた取り組みがあった。また、防災に関しては、学校の防災と地域の連携の必要性や、大和で育った子は、どこに行っても防災のマインドがある、となるように、学校で防災教育をしっかりと行うこと、また、福祉と災害対策の垣根を超えた防災の取り組みが重要だ、という議論もあった

委員 : 福祉避難所の運営を考えるにあたり、国が進める地域共生社会と似た要素があると考え。行政は、避難者の中で高齢者、障がい者などの分類をせざるを得ない面もあるが、一概に高齢者、障がい者とは言っても、できること、できないこと、苦手なことなどは、人それぞれ、個性のように違っている。避難生活においては、そうした個性に対応することが必要となるが、公助がそれを行うのは非常に難しく、行えるとすれば、地域において他にない。そのため、地域が日頃から、そうした要支援者を実際にどうサポートするかを考えることが重要なのであり、行政には、地域にそうした動きを促進するよう取り組んでほしいと考える。

また、最近貧困の問題が顕在化しているが、ひとくくりに生活困窮世帯とは言っても、ひとり親世帯や高齢、障がい者世帯など様々であり、これまでの縦割り行政で個別に取り組んでしまうと、法制度の間にいる方がこぼれてしまう恐れがある。次の計画の検討にあたっては、課題としてほしい。そして、福祉避難所の話にも当てはまるのだが、そうした人間の個性の違いへの接し方は、やはり先入観の少ない子どもの時期に教えることが有効と考える。同じく、次期計画策定において検討してほしい。

委員 : 障がい者の話が出たが、「障がい」について、「害」をひらがなで表記しているのは良いことだと思う。様々な分野における世界的な天才の中にも、発達障害を持つと言われる人が多々いる中で、そうした良い面を活かしていくことも重要と考える。健康創造都市の次のステップとして、そうした課題を検討しても良いのではないか。

委員 : 大和市が「障がい」をひらがな表記としているのは、障がいがない人も含め、様々な意見に配慮した結果だと聞いている。その一方で、障がいのある人に表記に関して質問すると、ほとんどの人は、漢字表記を問題視していない答えが返ってくる。漢字表記を好ましくないと考えるのは、障がいのある人が大勢を占めているようである。横浜市でも過去に同様の意見聴取を行っており、やはり障がい者からは、漢字表記で構わない、という回答が多かったため、全市的には漢字表記のままとした、と聞いている。余談だが、日本ではアスペルガー症候群などのお子さんを持つ保護者は、一般的に障害者手帳の認定を受けることが多いが、手帳を持っている人を教育で伸ばそうとしない傾向がある。昔から定義が確立している障がいへの支援は、制度としてそれなりに対応されるが、比較的新しいものは狭間に残されがちである。そうした部分に、どう対応していくかは、大きな課題である。

会長 : 障がい者の話は、当事者と周囲で受け取り方が違うなど、差別の話と似ている。共生社会を実現するために、互いに助け合える関係を作る必要があるように感じる。

- 委員 : 「障がい」という言葉だけにとられるのは好ましくない。社会通念上どこまで許せるか、それを許容できるキャパシティを個人が持てるかどうか、教育などでどこまで育てられるかが重要ではないかと思う。
- 委員 : 地域共生社会に関連し、国は犯罪被害者やその家族、または刑を終えて出所した人についても地域での受け入れを検討するよう要請してきているが、性質上、個人のキャパシティを広げるだけでは難しい面もある。
- 委員 : 再犯のリスクの高さを考えると、罪を犯した人に対して周囲の人間が怖がるのは当然である。
- 委員 : 刑を終えた犯罪者が地域にいることを知らしめる事が、差別や偏見を増長させてしまう可能性がある。
- 会長 : 再犯リスクが高いのは統計的に事実だが、そういった地域での受け入れが上手くいかないことで、どうしてもなくなり、再犯せざるを得ない状況に陥ることもあるのかもしれない。このように様々なケースが考えられることから、地域社会のあり方というものは、非常に広く深く大きい課題であるということなのかもしれない。
- 今日いただいた意見は、3年分の施策評価に付け加える部分もあるが、次の総合計画作りにも活かしていただきたい。資料1から資料7は施策評価を各論としてまとめたものとなり、全体をまとめた内容が資料8で、これが提言の本文となる。資料8について説明いただきたい。
- 事務局 : **【資料8について説明】**
- 会長 : 本日の皆様のご意見を整理し、最終的な提言としてまとめていただきたい。本日の議題についての議論は、以上とさせていただきます。

-----

以 上